

SEISEKI ZINE

聖蹟人

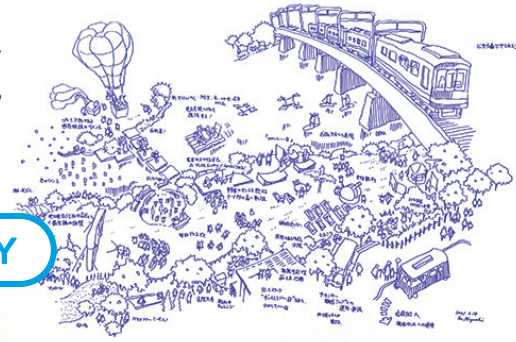
まちづくり
特別号
#

川からまちへ。
まちづくりは次のステップへ！
活動・交流拠点「タトネ」がこの春オープン！

Take
Free

かわまちづくりの歩み

このまち最大の地域資源である多摩川河川敷の活用では、地域の方々や行政、地域事業者による意見交換や社会実験を経て、地域初のエリアマネジメント団体の立ち上げ、せいせきカワマチの運営が実現し、地域共創の新しいまちづくりが始まる契機となりました。その5年間を振り返ります。



かわまちづくり STORY

2020

3月

多摩市が国土交通省に「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」を登録

現・せいせきカワマチなどを整備して活用を進める方針が決定!

2022

8月

聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会を設立

地域の主要団体が参加する、かわまちづくりについての情報共有・意見交換の場

10・11月

社会実験（秋）を実施

現・せいせきカワマチの利用ルールの検討や、活用のプレイヤー発掘を目的に一ノ宮公園で多様なイベントを実施!



2025

2月

令和6年度「かわまち大賞」を受賞

官民連携の優れた先行事例として評価され、国土交通大臣より表彰!



第1回カワマチシンポジウムを開催

地域の皆さんとかわまちづくりのこれまでを振り返り、これからについて考えました!



2021

5月

地域での意見交換を開始

地域でかわまちづくりについて話し合い、将来イメージを膨らませました!



2023

5・6月

社会実験（春）を実施

9月

（一社）聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントを設立

協議会での議論を経て、せいせきカワマチの活用を起点に地域共創のまちづくりを進める団体としてエリアマネジメント法人が設立!

10月

せいせきカワマチが供用開始

せいせきカワマチの供用開始。地域と行政が連携したルール作りで、自由に過ごしたりイベントの開催が可能に!

レジャーグッズレンタルを開始

手ぶらでせいせきカワマチを楽しめるグッズレンタルが開始!

2024

6月

せいせきカワマチクラブを発足

せいせきカワマチを活用するコミュニティが発足!

To the Future

コミュニティづくりとリンクした せいせきカワマチの活動の広がり

地域で活動しているお店や団体などと共創型で開催しているマルシェイベント
「せいせきカワマチオープンデイ」をはじめ、多摩川河川敷を活用した多くのイベントが実現しています。

地域プレイヤーによるイベントのほか、
地元スポーツチームや大学と連携したイベントなど、活用の幅は広がり続けています！



せいせきさくらがおかメリーゴーランド



KAOFES
KAO マンマ・ミア



東京ヴェルディ
みんなでパブリックビューイング



BEER Picnic



どてファニチャー

せいせきカワマチクラブ



一人では難しくても、他のメンバーと一緒に取り組めばやりたいことが実現できる！メンバー同士のコミュニケーションを通して、やりたいことのマッチングやオープンデイの企画を行うコミュニティ。企画創出ワークショップや交流会なども開催しています。

せいせきカワマチオープンデイ



春と秋の年2回、せいせきカワマチで開催しているマルシェイベント。まちで飲食店を営んでいるお店や地域活動を行っている団体の方々と一体となりながら、共創型でつくりあげています。

数字で見るせいせきカワマチ

2023年10月の供用開始から2年、様々な活用が実現してきました！

芝生広場利用件数

149件

新たな賑わいが生まれています！

キッチンカースペース利用件数

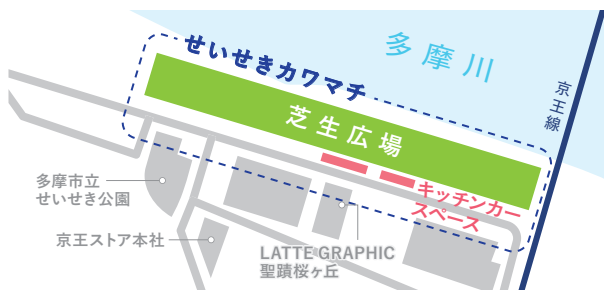
230件

日常的な「美味しい」機会が盛りだくさん

せいせきカワマチクラブ
メンバー数

76人

せいせきカワマチ活用の仲間がどんどん増えています！



イベント来場者数

47,000人

2年前にはゼロだった場所に、
こんなにたくさんの方が訪れました



※2023年10月～2025年9月実績



ウェブサイト



Instagram



Facebook

カワからマチに！

—まちづくりは次のステップへ—

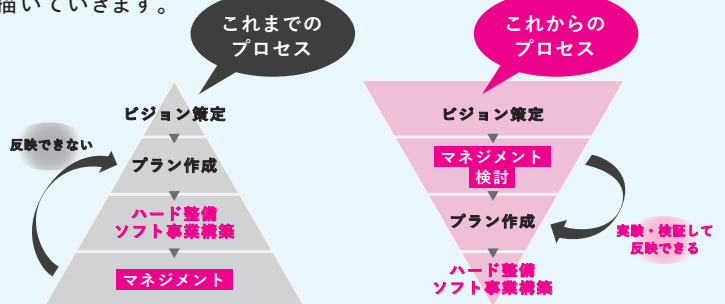
せいせきカワマチの活用を通して、地域のチカラで生み出した新たな賑わいを駅周辺のまちなかに広げ、より居心地の良い楽しいまちにするために、このまちに関係する方々の想いをまちの将来像としてまとめ、それをみんなで実現していく“未来ビジョンづくり”がこれから始まります。「こんなまちにしたい」という地域の方々の想いを起点に、実験と検証を重ねながら未来ビジョンを描いていきます。

「聖蹟桜ヶ丘の街を愛する

市民や事業者の方々の想いが、

これからの挑戦の原動力になります！」

未来ビジョンづくりのアドバイザー
有限会社ハートビートプラン 代表取締役
園田 聡さん



行政×エリマネ 官民それぞれの未来ビジョンへの思い

未来ビジョンづくりから進めるまちづくりの可能性とは？
それぞれの立場で語っていただきました！

篠崎 行政としては補助金や制度づくりなどのお手伝いはできるものの、どうしても手が届かない部分があるので、行政にはないアイデアを民間が主導で実現していける体制はとても頼もしいなと思っています。せいせきカワマチでのイベントなどを通して、地域の皆さんと信頼関係を築き、相談しやすく頼りがいのある存在として、共に未来を作っていくことができたら嬉しいですね。

山崎 行政側の立場は「全員がハッピー」を目指すことが役割ですが、地域資源を活かしながら、まち全体に波及効果を出せるところに注力できるのが民間発意の未来ビジョンづくりの強みだと思っています。何かを企画して実行したい人たちをサポートするのが私の役割なので使い倒していただきたいですね。

聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント事務局
山崎 瞭佑さん(右)

多摩市行政管理課
篠崎 敢太さん(左)



マチを長年愛してきた2人が語る、 未来ビジョンへの期待感！

それぞれ商店会の会長を務めるなど、聖蹟桜ヶ丘の変遷と共にまちと関わってきたお2人からもご意見をいただきました。



三橋 今までこのまちでお店を始める人を多く見てきましたが、すぐにやめてしまう人が多かったんですね。住民の人たちはどうしても行きつけのお店に通う傾向があるのでなかなか定着するまでに時間がかかる。マンションができて住民も増えて、新しいお店がもっと増えていくといいと思います。商店街自体が古くなってきて、建物の耐震の問題もありますが、聖蹟桜ヶ丘でないとできないことを実現したいという人たちが、この未来ビジョンづくりをきっかけにもっと増えてほしいと思います。

聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント
代表理事
三橋 誠さん(左)

飯島 多摩市でもニュータウン地域の方は、これまで官民連携でやってきたと思うので、この聖蹟桜ヶ丘周辺も、共同でできることの限界まで頑張ってほしいと思っています。このまちは商圈として弱いと言う人もいますが、個人店はやり次第。真面目に商売を続けていけば、可能性があるまちだとも感じます。今ここにあるものを活用しながら、同じ多摩市でも多摩センターあたりではできない聖蹟は聖蹟なりのやり方があるはず。それぞれのエリアの個性を活かし合いながら未来ビジョンも広がっていくといいですね。

桜ヶ丘商店会連合会
会長
飯島 聖士さん(右)

聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントが多摩市初の「都市再生推進法人」に指定！

一見難しそうな、その中身って!?

【都市再生推進法人】とは？

官民それぞれのパートナーとして、様々な法制度を活用して地域のまちづくりが円滑に進められるように支援する団体。

何が
変わるの？

指定を受けることで、法制度活用の主体となり、道路を使ったイベントや公園へのカフェ設置など多様なアクションが民間発意で可能に！



道路を使ったイベント



公園への民間カフェの設置

地域の人の活動・交流拠点 「タトネ tatonner」がこの春オープン！

2026年春に、聖蹟桜ヶ丘駅すぐのプラウド京王聖蹟桜ヶ丘1階に地域の「人」にフォーカスし多様な活動・自由な交流が生まれる新たな拠点「タトネ」がオープンします。

【タトネ】とは？

様々なイベント・文化活動・創業支援などを通して「関係性のハブ」として、まちに住む人や通う人たちが自由な発想で活動ができることをサポートしていく活動・交流拠点。その活動や交流を波及させ、まちの居場所として存在しながらまち全体の賑わいを生み出すことを目指していきます。



タトネの4つの機能

1 カフェ

地域の人たちが気軽に集まり、交流ができるカフェレストラン。施設内の他の機能とも連動しながら賑わいを広げていく、本拠点のコア部分。

2 貸棚

一箱につき一人の店主、自分ならではのショップやギャラリーを開くことができる貸棚は店主それぞれのスタイルからお店に訪れた人たちがインスピレーションを得られる場。

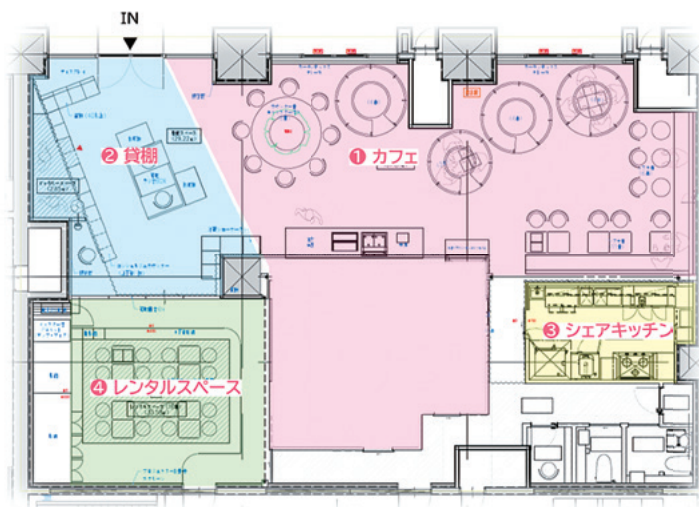
3 シェアキッチン

多摩市初の駅前シェアキッチン。いつか自分のお店を持ちたい、自分の作ったものをみんなに食べてほしい、そんな人たちの夢が実現するスペース。

4 レンタルスペース

ワークショップや講演会、ポップアップイベントや展示など新しい地域の活動拠点となる空間。

レイアウトイメージ



タトネ (tatonner)

📍 多摩市関戸 4-4-2 プラウド京王聖蹟桜ヶ丘 1階

【プロジェクトメンバー】

事業主体：京王電鉄

カフェ運営：WAT

建築設計：HAGISO

プロジェクトデザイン：トーンアンドマター



NEWS
RELEASE



プロジェクトメンバーに聞く、 「タトネ」の魅力とは？

タトネの事業パートナーとして参画するのは株式会社 WAT、株式会社 トーンアンドマター、株式会社 HAGISO の3社。
WAT はカフェ運営、トーンアンドマターはコンセプト設計やイベント企画支援、HAGISO は設計とイベント企画支援として
それぞれ関わる代表の3人に、聖蹟桜ヶ丘のまちやタトネへの思いを聞いてみました。

Q：聖蹟桜ヶ丘のまちの印象は？

樋口 都心近郊ベッドタウンとして、模範的な安心感を感じました。綺麗で、便利で、感じの良い人が多い。また、特徴的な川などの自然要素もあるので暮らしやすい街なのだろうと感じました。

広瀬 映画の『耳をすませば』でも表現されていましたが、場所ごとに景色が少しずつ変わるのが魅力ですね。

宮崎 多摩川の圧倒的な存在感と、反対のいろは坂側の起伏豊かな地形のダイナミックさですね。

Q：皆さんのこの拠点での役割は何ですか？

樋口 安心感の延長として、誰にとっても居場所となるカフェを提供したいです。暮ら

し方や消費の仕方が変わる中で変化の速度が違う人たちがそれぞれほっと一息つける場でありたいです。

広瀬 この拠点がまちの中でどんな役割を果たすべきか、その位置付けを整理しながら方針づくりをお手伝いしています。

宮崎 内装設計者として、チームの構想を形にする役割を担っています。施設運営の経験を活かしながら設計をしました。

Q：この拠点の一番の魅力は？

樋口 カフェに加えてシェアキッチンや貸棚など、機能が複合している点が魅力だと思います。来訪目的に多様性が生まれることで立ち寄りきっかけが増え、人の意識が自然とこの場所に向けて街への存在感や帰属意識が高まると感じています。

広瀬 複合的な機能が並びながらそれぞれの活動が交わったり離れたたりできる点ですね。この余白の可能性が、地域の魅力を引き出す土壌になると思います。

宮崎 いつ訪れても何か面白いことに出会える、発見がある場所になるといいなと思っています。ワクワク感を感じてもらうことが重要だと思い設計を行いました。

Q：自然発生的に交流が生まれる場に大切なことはなんだと思いますか？

樋口 場を運営する上では、良くも悪くも八方美人であることが大切だと思いま

す。コミュニティが硬直しないようにしつつ、滞留が生まれる程度の小さなルールを整えること。継続する場ほど実は繊細だと思っています。

Q：この拠点ができると、まちにどんな変化があると思いますか？

広瀬 日々の中に小さな動きや交流が積み重なることで、少しずつ新しい風景が生まれていくと思っています。そのためにも、「今までと少し違うことをやってみよう」と思える空気が広がり、人や活動の選択肢が増えていくことがこのまちにとって大切だと感じています。

Q：自分だったらこの拠点でどんなことができると思いますか？

宮崎 もし自分がこのまちの住民だったら、映画の上映会をレイトショーとしてやりたいですね。通りからも中で映画を観ている様子が見える形にして、映画好きが集まる不思議な夜が楽しそうです。



株式会社 WAT
COO / 一級建築士
樋口 康太郎さん



株式会社 トーンアンドマター
代表
広瀬 郁さん



株式会社 HAGISO
代表取締役 / 建築家 / 一級建築士
宮崎 晃吉さん

noteでも「タトネ」に関する情報を発信中！



地域のプレイヤーに聞いてみた、 「タトネ」はどう使える？

これから活動・交流拠点として稼働していくにあたって、大切なのはリアルな声。地域のプレイヤーであるお2人に、「タトネ」の可能性を語っていただきました。



懐月堂
志賀 絵理子さん

昔からあるレトロなお菓子屋さんのような地域に根付いたお店を目指し、懐かし
く優しい味わいの
焼き菓子を販売。



instagram



たみのおやつ
手塚 民子さん

喜んでいただける、気軽に脚を
運んでいただける、そんなお店で
ありたい。自家製天
然酵母のペーグル
やドーナツを販売。



instagram

Q：お2人が商品づくりを始めた理由を教えてください。

志賀 私はお菓子の世界観や食べることが好きだったので、自分が食べたいお菓子を作りたいと思ったことがきっかけでした。はじめはお菓子の会社に勤めて商品開発をし、その後は多摩近郊のケーキ屋や和菓子のお店で働きました。洋菓子と和菓子の両方を経験したことで、和と洋を融合させた子どもも安心して食べられるお菓子を作っています。

手塚 私は天然酵母のペーグル屋ですが、元々学生時代は陸上をやっていました。体を動かすことに加え食べることも好きだったので、学生時代は家庭科の教員免許を取得しましたが、裁縫があまりピンと来なくて(笑)。学生時代から20年程パン屋で働किながら独学でパン作り。コロナ前には人気のペーグル屋さん kepo bagles で修業しペーグルの美味しさに取りつかれ、今のたみのおやつがあります。

Q：プレイヤーから見て感じる「タトネ」の魅力とは？

手塚 実は、昔から将来自分がやりたいことをノートに書きとめてたのですが、思い描いていたお店のイメージが今回のタ

トネとそっくりだったんです！知らない人とも交流ができる場所、子育てしているお母さんがつるげる空間など考えていたことがまったく同じでびっくりしました。そんなスペースで自分が作ったパンを売りたいと思って、いたことが、実現することを魅力に思っています。

志賀 京王電鉄さんが人と人がつながることに重点を置いているということは前から感じていたのですが、さらにそんな場所ができると知って多摩地域の発展が楽しみになっています。1階にカフェがあるとまちの雰囲気良くなると思いますし、作家さんの商品を置く棚などあるのは文化的にも良いと思うので、とても期待感があります。横のつながりが生まれそうなのも楽しみです。



Q：今後どんな活動の広がりがあると思いますか？

志賀 お店を出店する人たち同士が相談したり、悩みを打ち明けあったりできるようになっていくといいなと思います。例えば商品の表示をどうしたらいいかなど、具体的な困りごとがあるので。今、私は出店を重ねることで食品関係に関わらず、コンセプトや好みが近い人とつながることができたのですが、タトネは職種関係なく出会いが広がっていく可能性を感じています。

手塚 私は製造以外の部分が苦手なので、例えば仕入れのタイミングとか準備段階について情報交換ができるといいですね。決済端末は何を使うとか、保険などお店をやる上では複雑なことがたくさんあるので。私はお客さまとお話すると人生相談になってしまうのですが、商品じゃないところで話が広がっていくのがいろいろなきっかけになるので、出店者とお客さまのコミュニケーションが活発になっていくとまちの活動も増えていくんじゃないかと思っています。

プロジェクトリーダーに聞く「タトネ tatonner」に込めた想い

「tatonner」はフランス語で「手探り」や「試行錯誤」という意味があります。この拠点で多様な人が活動・交流する事で新しい何かが生まれていってほしいという想いを込めています。この施設での関わり方にルールはありません。新しいことを始めたい人、自分を表現したい人、支えたい人、仕事をしたい人、勉強をしたい人、カフェでゆっくりしたい人、美味しいランチを食べたい人・・・様々な思いを持って多様な活動をする人たちの受け皿となり、ここでなければ変わることがなかったかもしれない人と人がつながり、さらに新しい活動や交流が

生まれる、そんな場所を目指しています。どんな活動や交流が生まれるかは未知数、まさに「手探り」な施設です。この施設でたくさんのファンを作ってもらい、活動の幅が広がったりステップアップしてもらえたら嬉しいです、まちにぎわいにつながっていけばと考えています。

京王電鉄
開発事業本部
聖蹟桜ヶ丘
プロジェクトチーム
横尾 聡美さん



『セイセキZINE』アーカイブ

はじめの
一歩!

詳しくは
WEB版で!



セイセキZINEとは?

セイセキZINE (セイセキジン) は毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャーする、市民参加型ローカルマガジンです。多摩市在住の有志の市民クリエイターを募り、セイセキ愛に満ちた誌面づくりをしています。



#0 創刊準備号

2022年2月 発行



#1

2023年5月 発行



#2

2023年10月 発行



#3

2024年3月 発行



#4

2024年7月 発行



#5

2024年11月 発行



#6

2025年3月 発行



#7

2025年7月 発行



#8

2025年11月 発行

市民クリエイター募集中!

京王電鉄と情報誌『BALL. (ボール)』を発刊するけやき出版は共同で、聖蹟桜ヶ丘のまちの魅力を取材・発信し、地域の価値創造を目指す取り組みの1つとして、市民参加型ローカルマガジンの発行を行っています。本誌は、聖蹟桜ヶ丘“People”ガイドをテーマに、毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャー。本誌では、有志の市民クリエイターとして聖蹟桜ヶ丘の“まちの魅力”を深掘りする方々を広く募集しています。

〔問い合わせ先〕

けやき出版

TEL: 042-525-9909 (平日 9時~18時) MAIL: e-info@keyaki-s.co.jp